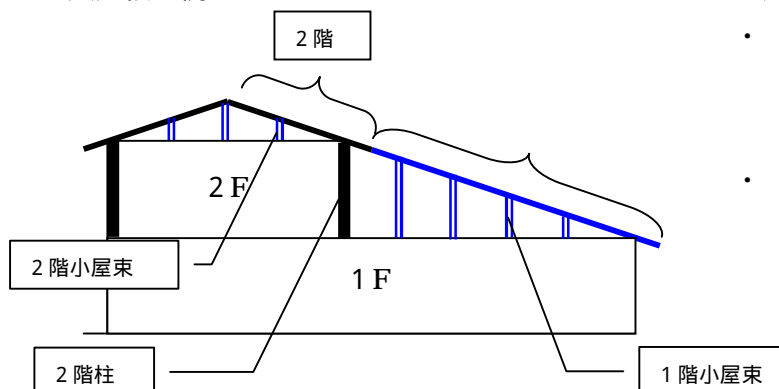


大屋根の入力例

<注意事項>

大屋根の物件の構造計算方法は住木センターの設計法に記載がないため、認証対象外となります。STRDESIGNでは、各階に分けて屋根と部材を入力することにより計算可能ですが、計算結果が適用できるか、どうかは設計者の判断になります。

1. 大屋根の例

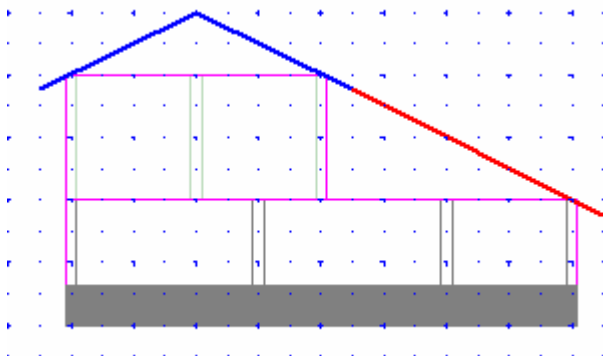


2階で入力した屋根は2階の部材で受け、1階で入力した屋根は1階で受けます。

注意事項

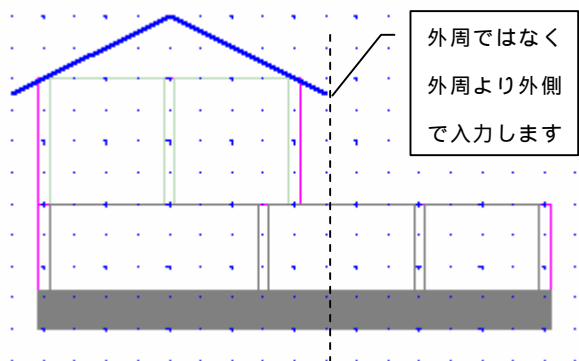
- ・ 下階まで覆う様な大屋根は、必ず上階と下階で別々の屋根として入力してください。
- ・ 複数階にまたがる登り梁には対応していません。

2. 入力例




左図のような例を入力します。
「建物概要」の屋根勾配、各階の標準軒高などを入力します。

屋根入力の手間を防ぐために、屋根は2階から入力していきます。(1階から入力すると、屋根地周りの調整が難しくなります)

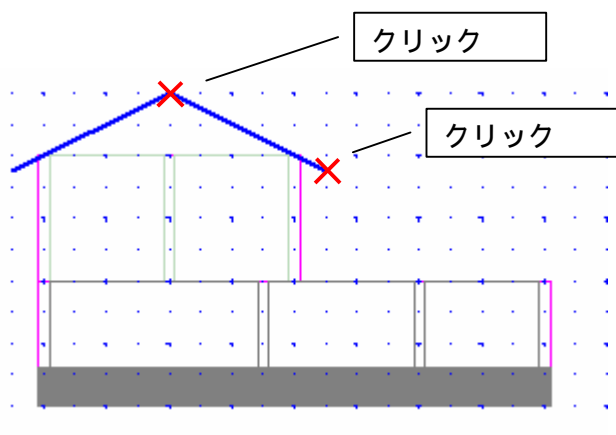


1階の部屋及び外周を入力します。

入力画面を2階に切り替え 、屋根、部屋及び外周を入力してください。

大屋根となる屋根は必ず外周から少し外側に距離をとってください。

立面に切り替え 、状況を確認します。



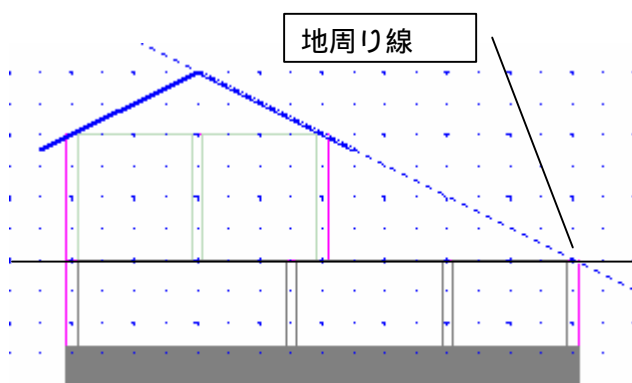
マウスの右クリックをし、[補助線]を選択してください。

[2点通過補助線]ボタンを押してください。左図に示すように、2階屋根の棟と軒先の2点をクリックしてください。

グリッド設定...
補助線設定...

鉛直・水平補助線

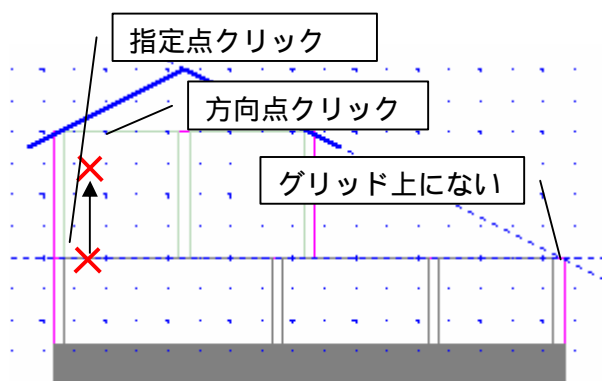
2点通過補助線



斜め補助線と1階軒高線とクロスしている場所が1階屋根の地周り線になります。

[OK]で補助線を作成してください。

この例は地周り線がちょうどグリッド線上になりますが、設定される屋根勾配、基本モジュールによって、地周り線がグリッド線上にない場合もあります。

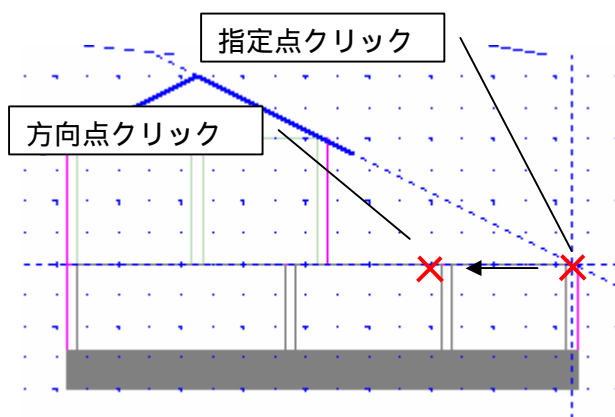


地周り線がグリッド線上にない場合、マウスの右クリックをし、[補助線]を選択してください。[鉛直・水平補助線]を選択します、左図のように1階軒高にクリックし、水平方向の補助線を作成します。

グリッド設定...
補助線設定...

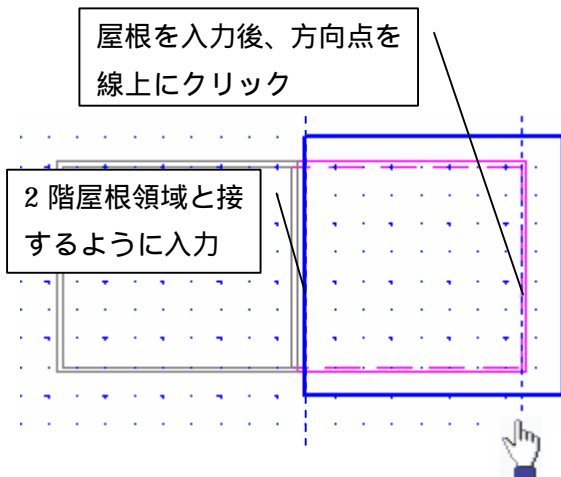
鉛直・水平補助線


2点通過補助線



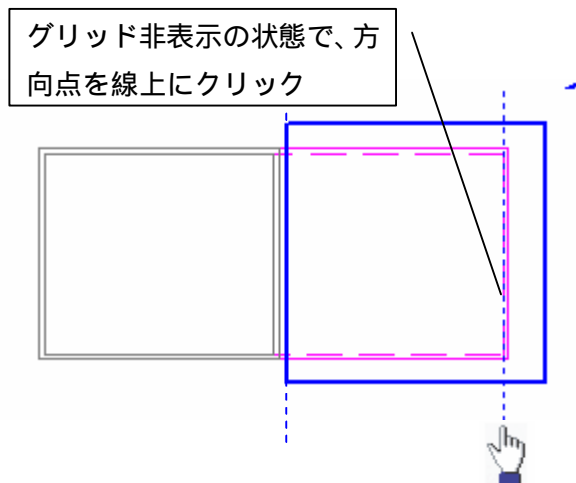
[鉛直・水平補助線]を選択します、左図のように斜め補助線と水平補助線のクロスしている場所に鉛直方向補助線を作成してください

鉛直方向の補助線が1階屋根の地周り線位置になります。



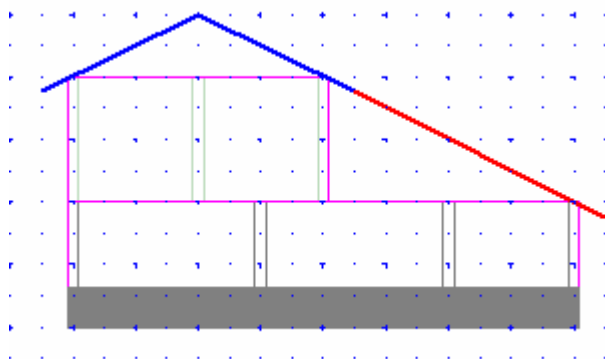
平面表示に切り替え 、1階屋根を入力してください。

屋根領域を入力後、マウスが指の形になります(方向点指定)。補助線上をクリックしてください。



方向点の指定がうまく出来ない場合、一時的に[番付/通り芯表示]をクリックしてグリッドを非表示にしてください。

 通り



立面表示に切り替え、屋根の入力状況を確認ください。

残りの部材を入力してください。

1階で入力した屋根は1階で入力した部材でのみ受けることが出来る。

階が異なる部材では受けることができませんのでご注意ください。